

# 長畝ふるさと通信



【2020年9月号】

## ■ 令和2年産米できました…少し残念…

今年は春先の気候が良く、初期生育は順調でやや草丈が高いなという印象でした。梅雨時期に雨は降らず7月後半になって連日の雨天・曇天で日照不足に。さらに8月お盆過ぎからは異常高温でモミが十分に養分を吸収できなかったようです。結果、全体に粒が小さめにまとまって、青未熟粒も多く見られました。また、食味値に大きく影響するタンパク値が例年より高く（普段は5.5～5.8%位）、食味値が80点を超えていません。お米は工業製品ではないので毎年同じ数値にはなりません、少し残念な結果となりました。



## ■ 稲刈りも四苦八苦



9月8日から稲刈りが始まり、草丈の高いコシヒカリがあつという間に倒伏し始めました。今年は台風の上陸こそなかったものの、秋雨前線が結構な雨を降らせたせいでべったりと総倒れ。調子が良ければ5台のコンバインで1日5ha、約40トンのモミが収穫できるはずなのに、作業スピードが上がらず日量30トン程度しかライスセンターに運ばれてきません。しかも田面が

湿っているせいで稲株が抜けてコンバインの刈り取り部に挟まって往生する場面が1日に何度となくあります。オペレーターの心が折れる瞬間です。また、ライスセンターでの乾燥調整作業も、「一等米」にするための色彩選別がはかどらず残業が続く毎日です。これでJAのコメ買取価格が大幅減額では泣き面にハチとはまさにこの事です。

## ■ ワーホリ2号も活躍



(上はキャベツ苗の定植作業風景)

(右は初めてのコンバインに感激の図)

9月からワーキングホリデー第2号のデービット君が来てくれました。彼もドイツ人ですが片言の日本語で毎日、愚直に働いてくれます。コンバインは体験だけですが、連日ライスセンターで1日中玄米の袋詰め作業を文句ひとつ言わず黙々とやり続け、夜は趣味の夜釣りに出かけます。たまにスケートボードで出勤したりして…唇ピアスが素敵な23歳です。



## ■ コロナ下の消費動向に期待

コロナの影響で外食産業が著しく低迷し、そこで消費されていた「比較的小さいお米(いわゆる業務用米)」の在庫が過剰となり、その結果、令和2年産米のコメ相場価格も大きく下がってしまいました。古米より新米が安くなる逆転現象が起きています。

日本政策金融公庫・農林水産事業部の調査によると「コロナ下で調理時間増える、食の志向は経済性志向が上昇」とある。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、消費者の25.8%が「食品の購入方法に変化が生じた」として、インターネット購入やテイクアウトが伸び、「今後も積極的に利用したい」と回答したという。また、自宅での調理時間・回数の変化については32.9%が「調理する時間が増えた」と回答し「このまま続かだろうと思う」が6割を超えたそうだ。現在の食の志向は「健康」「経済性」「簡便化」が3大志向だそうで、今回の調査では「経済性」が上昇し、「健康」「簡便化」は低下したらしい。つまり新しい食生活スタイルは「家食」は増えるけど、「高いものは控



えたい」となるのだろうか…。消費者にとって「値ごろ感」は大事な要素で、そこにマッチしない商品は敬遠されるという事でしょうか。うちのお米が皆さんにとって「値ごろ」かどうかは判断できませんが、1年365日、毎日美味しく食べていただけるお米をこれからも作っていきたくと思っています。できればこの状況下でより大勢の人から食べて頂けたらと、微かな期待も込めて…